

グリーンハーバー

NPO法人 みどりの市民 ニュースレター

No. 56号
2022.3

発行:NPO法人
みどりの市民
〒380-8553 長野市若
里 4-17-1 信州大学
工学部 UFO ながの
高木研究室
発行人:高木直樹

「海ごみ対策地域リーダー養成講座」実施報告

NPO法人みどりの市民は、長野県が推進している信州プラスチックスマート運動（「海なし県から考えよう海洋プラスチック問題」）の協力事業者の登録団体として活動しています。

今年は、昨年を引き続いて上流県における海洋プラスチック対策推進のために、「海ごみ対策地域リーダー養成講座」を4回シリーズで開催しました。これは、長野県が進める「信州環境カレッジ実践者養成講座」の一環として活動実践者の養成を目指して実施しました。

以下その報告をいたします。

◆ 第1回(6月19日)は、雨のため屋外でのごみ拾い等の活動を変更して、「脱プラスチック概論」などの学習と、各自の「脱プラに対する取り組みや意見発表」を行いました。

◆ 第2回(10月23日)講演会「海ごみの現状とその対策について」

中井八千代先生*を講師に迎え、講演会「海ごみの現状とその対策について」を会場とオンラインのハイブリッド方式で開催。中井先生の、「待ったなしの海ごみの現状と、自分たちは何をしたらよいか」についての熱いメッセージは、次のステップへ大きな力となりました。（*容器包装の3Rを進める全国ネットワーク運営委員長）



◆ 第3回(2月13日)は、オンライン公開セミナー「脱プラ対策・リレートーク」

行政、企業、NPOからのパネリスト5人が、それぞれ異なった立場から「脱プラスチック対策」についての取り組み状況を報告し、中井八千代先生にファシリテーターとまとめをお願いしました。

☐環境省の平尾リサイクル推進室長は、

4月から施行されるプラスチック資源循環推進法について、プラスチックごみの現状、条例の目的、条例の具体的内容などについて報告し、レジ袋の有料化の効果を上げるにはシステム化が大事であり、今回の法律は設計段階からごみを出さないように事業者に求めていること、そのうえで消費者に望むことは「選んで 減らして リサイクル」であると強調されました。

☐亀岡市の環境部長の山内さんは、

全国で初めてレジ袋の有料化条例制定に至った経緯、その後のマイバック持参率が98%になったこと、市民の環境意識が向上したこと、「エコウォーカー」など市民を巻き込んだ先進的な事例など、どの取り組みも大変心に響くものでした。

☐東京のトベ商事(ビン商)の戸部さんは、

100年にわたるリユース瓶の取り組み、それを現在にどのようにつなげてきたか、生活協同組合との協働、今後への展望などについて報告。持続可能な社会を作るシステムはリユースびんであるという確固たる信念に基づいたお話しは説得力がありました。

□NPOからは、認定NPO法人スペースふう理事長永井寛子さんは

全国で初めてリユース食器レンタル事業をはじめたことを報告。（みどりの市民も会員、長野県内にリユース食器を広めた。）コロナ禍でイベントが中止になり、現在新しい展開として お弁当容器のレンタル事業を福祉事業とのコラボにより起業化を図っています。永井さんのこれまで培われてきたリユース食器への篤い思いが、コロナ禍で増えている弁当容器のレンタル事業へと進化していく様子が語られました。

□地元からのパネリスト「水もつと信州大学」代表の西野竜介さんは、

信州の美味しい水を利用することによりペットボトルを減らし、持続可能な社会の構築を目指す取り組み「信大クリスタルプロジェクト（給水機設置活動）」の報告。インターネットラジオによる新しい広報ツール「もつとキャスト」の実践など、若い世代からの提案は長野県の脱プラ活動として期待されています。

□最後にまとめとして中井先生は、

政府は対策として、「プラスチック資源循環促進法」を制定したが、発生抑制・再使用が弱く、拡大生産者責任も徹底されていないという課題が残されている。環境配慮設計を進めてごみを減らし、高度なリサイクルを進めるためには、消費者・自治体・事業者が協働する必要がある。消費者の重要な役割として、持続可能な循環型社会への転換をめざし、まず私たち自身の暮らしを見直し、エシカル消費を心掛け、極力使い捨てプラスチックを出さない暮らしの実践から始めましょう。と参加者に呼び掛けた。

◀ アンケート結果 ▶ ほぼ参加者全員の人から「満足、役に立った」という結果が得られました。

*****◀ 主な感想と受講してみたい講座（抜粋） ▶ *****

- ・日頃の生活でプラスチック容器を減らせないか気になっていたが、新しい法律や様々な取り組みを知った。
- ・プラスチック製品が環境をいかに汚しているか、自分に何が出来るかを学んだ。
- ・亀岡市の行動力とアイデアに脱帽でした。一刻も早く県内市町村でも条例を作って欲しいと思いました。
- ・日本、海外で環境問題に先進的に取り組んでいる事例をもっと紹介してほしいです。今回、自治体、企業、NPO 法人、学生の方のそれぞれの実践例でとても聴き応えがありました。

◆ 第4回(2月23日)上映会「マイクロプラスチックストーリー」と制作監督のビデオメッセージ

動画配信 ニューヨークのブルックリン小学校4年生が2年間に涉ってプラスチック問題について学習を深めるこのドキュメンタリー映画について、佐竹監督は「この映画は変革のレシピでありコレクティブアクションの大切さを知って欲しい」とメッセージを寄せています。

*****◀ 参加者の感想 ▶ *****

科学的な調査をもとにして、社会をかえるために議会に行ったり、デモをして主張する流れがあって身近な問題を発見して、調査して、どうすれば良いか考えて、変えるために行動をする。最高の学びです。日本版をつくるにあたり、公募の子供、関係する大人に吹き替えてもらったり、日本語版の小道具を準備してもらったりと、とても素敵だと思います。私も、できることで行動しようと思います。

佐竹監督のメッセージ 佐竹監督は「この映画は変革のレシピでありコレクティブアクションの大切さを知って欲しい」とメッセージを寄せています。

「マイクロプラスチック・ストーリー」上映会
& 佐竹監督ビデオメッセージ

プラスチックごみによる環境汚染問題を学んだ、ニューヨーク・ブルックリンの小学生等もたまたま集った子どもたちが、世界には法を定めずプラスチック汚染問題、ブルックリンの小学生等もたまたま集ったこの問題を学び、彼らならではの視点で問題を捉えるべく思いだし、解決に向けてアクションを続けて行くまでの2年間を遡る。

日程 2022年2月23日(水) 祝日
1回目 10:00-11:45 上映と佐竹監督のビデオメッセージ
2回目 13:30-15:15 上映と佐竹監督のビデオメッセージ
(※会場はコロナウイルス感染防止のため15分前です)

★場 所 長野市ふれあい福祉センター5階ホール
★参加費 500円(前売券400円)、高校生以下無料
★定 員 各回 40名
★申し込み 電話・FAX・メールで(前売り券は必ず申し込みの受付までご連絡下さい)
★締め切り 2月21日(月)

◀ 連続講座を終えて ▶ *****

海ごみ対策の具体的な活動、リユースびん、リユース食器、レジ袋の禁止など、実践者の取り組みは意外に知られていません。単なるごみ拾いに終わるのではなく、次へどう進めていくのかという具体的なイメージを共有できたことは大きな成果だったと思います。また、知らせ伝えて共に学ぶことも大切な活動であることをあらためて感じました。みどりの市民もさらにこのような啓発活動を継続していきたいと考えています。

2022年3月「どんぐり・るるネット」これまで・これから

庭や畑がない人でも手軽に生ごみの堆肥化が家庭でできるようにと、2018年12月から始めた「生ごみ段ボール堆肥の回収と竹チップの配達」のシステム「どんぐり・るるネット」。2019年から3年に亘り長野市のまちづくり活動支援を受けて実施してきました。2021年度末の会員数は62名と最終目標の100名には残念ながら達していません。しかし、参加者からは、「るるネットに参加してよかった」「家でもSDGSに参加できる」などの応援の声が寄せられています。4月からは市の支援金が無くなります。そのため、運営体制を見直して進めていきます。

★ 2021年度活動は、5月8日 第1回目の配達・回収を始め最終回の3月6日まで2コースで5

《2021年度実績》

・段ボール堆肥回収個数：131箱
・竹チップ配布箱数：286箱

回、延べ10回行いました。6月8日には中条地区で筍狩りと淡竹粉砕の視察（参加者12名）、3

月9日には会員交流会（13名）を実施し、堆肥化状況などワイワイガヤガヤと楽しく“やる気” “元気” “根気” を交換しました。又、生ごみ堆肥化の情報を伝える「るるネット通信」を4回発行し、会員さんからは喜ばれています。



研修会(6/8)筍狩りと竹チップの製造見学

★ 2022年度は長野市の活動支援金が無くなり、会費を値上げせざるを得なくなりました（左記参

《会費》 A会員（個別回収配達）：2,500円
B会員（拠点回収配達）：2,000円

照）。また、配達運搬は西山淡竹会から花工房福祉会エコーンファミリーになり、又新しい出会いが生まれるのではと期待しています。配達・回収コースは3コースで、るるネット

は5月9日から始まります。くるくるまわる生ごみ堆肥化システムの「どんぐりるるネット」。多くの人に愛される活動になるように願っています。皆様のご参加お待ちしております。（事務局 W.H）

「心の肥やし」 歩いたから見たもの 聞こえたもの

松本玲子（会員 生ごみ減量アドバイザーコーディネーター）

この冬は運動不足のため、時には車に乗らずバスや電車を利用して歩くことを始めました。

ある日バス停まで行ったところ、まだ時間があったので一駅歩くつもりでバスの通る大通りから脇の小道に入りました。小さな川沿いの道を歩いていると川との柵(ガードレール)の上に小鳥が飛んで来て留まりました。胸からお腹にかけて綺麗なオレンジ色で羽には白い斑があり、尾を震わせながら澄んだ声でヒッヒッと鳴きました。思わず足を留めて見惚れました。またある時は、坂道を登って家に帰る時、大木の木の枝から枝へチッチッ、チッチッチッと鳴いては移動！鳴いては移動！ に、この間の小鳥かと振り返って見上げていました。



いつもなら、車に乗ってあっという間の移動時間です。歩いたからこそ見たもの、聞こえたものは、心の肥やしになりました。

みどり農園へ行こう！

《目指すこと》

- ・有機栽培（有機たい肥、無農薬）で、子ども達が土に触れて安心できる畑作りをします。
- ・循環型社会づくりの実践農場(体験の農場)を目指します。
（生ごみ減量・堆肥化を目指し生ごみの受け入れ用コンポスト設置）
- ・遊休農地を活用し、会員相互のふれあいの場造りを目指します。



《今年の目標》

味噌づくり用大豆の栽培を主体とし、焼き芋用のさつま芋、ジャガイモ他野菜を作ります。

◇◇畑作業のスケジュール（予定）◇◇

- | | |
|-------------------|-----------|
| ・ジャガイモ種まき | 4月16日（土） |
| ・さつま芋植え・野菜種まき・草取り | 5月21日（土） |
| ・大豆種まき | 6月12日（日） |
| ・草取り、土寄せ、 | 7月2日（土） |
| ・ジャガイモ収穫、草取り | 7月23日（土） |
| ・さつま芋掘り・大豆収穫(収穫祭) | 10月9日（日） |
| ・大豆脱穀(焼き芋・片付け) | 10月23日（日） |

<大豆選別、11月～12月>

活動状況はみどりの市民 HP 上のブログに掲載いたします

現地集合午前9時
午前中に作業終了
変更の可能性あり



お知らせコーナー



新しい年度が始まります。

NPO法人みどりの市民2022年度通常総会
とき／5月14日(土)10時～12時
ところ／長野市ふれあい福祉センター和室

生ごみ減量アドバイザー養成講座 受講生募集

日時 5月13日(金) 5月27日(金) 6月10日(金)
6月24日(金) 7月12日(火) いずれも9時～12時

会場 長野市ふれあい福祉センター

定員：15名 参加費：2000円

あなたもアドバイザーになって活動してみませんか？

地球に花束生ごみ減量大作戦 生ごみ減量堆肥化講座

日時：4月13日（水）

場所：ふれあい福祉センター

参加費：500円

持ち物：段ボール箱（ミカン箱）

クラフトテープ、新聞紙2日分

定員：10名

申し込み締め切り4月8日（金）

《申し込み方法》

下記みどりの市民の事務局へメール、
TEL、faxで、お名前、連絡先をご連絡く
ださい。

*行事等はコロナの感染状況により変更の可能性がありますので、事務局及びHPでご確認下さい。

みどりの市民の会員数（2022年3月1日現在）

正会員 48人 賛助会員 14人 団体賛助会員 1団体

〒380-8553 長野市若里 4-17-1

信州大学工学部 UFO ながの高木研究室内

TEL&FAX 026-269-5092

E-mail: midorit18@shinshu-u.ac.jp

URL <http://midorinoc.sub.jp/>



《キャンパスの一隅にて》

コロナ、ウクライナ戦争、今年の春は暗いニュースばかり。心なしか、遅い春を迎えています。でも空に風に大地に春は確実に来ています。ちょっと足を止めて、空を見上げてみよう。大地に目を向けてみよう。風の音を聞いてみよう。春を感じよう。そして自分を励ましている日々です。キャンパスの桜はまだつぼみ。もうすぐ元気を連れてきてくれます。5回目の春を迎えて。(w.h)